

1. 今年度の重点的な取組方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
1－1. 市の方針に即している	4	第6期茅ヶ崎市高齢者福祉計画・介護保険事業計画を職員は熟読し、方針に沿った事業計画を作成し事業運営を行うように努めてきた。	4	市介護保険事業計画等の基本方針を踏まえ、包括の事業計画を策定している。それに基づき業務を遂行し、地域の関係者との関係が深まっている。	
1－2. 長期的な視点で見たときの今年度の位置付けを意識している	4	上記の計画を踏まえ、27年度は地域包括ケアシステム構築のスタートラインとして関係機関(地区社協、ボラセン、民児協、地域の公共機関等)との連携を図り、各機関の代表者との地域ケア会議を開催した。	4	地域包括ケアシステムの構築を目指し、平成27年度は関係機関との信頼関係の構築に努めると共に、地域ケア会議を計画どおり開催できている。	
2. 組織の運営体制の具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
2－1. 組織体制が明確である	4	法人内及びセンター内における組織図が明確となっており、指示命令及び報告・連絡・相談が円滑にできる体制が整っている。	4	法人内における包括や管理責任者の位置づけ及び包括内における管理責任者の役割が明確であり、その体制の下、包括が適切に運営されている。	
2－2. 切れ目なく三職種を配置し、業務を継続するための取り組みがある	4	人事異動や退職等で職員が変更となる場合において、本人や法人からの申し出に対し適切な猶予期間を設けている。	4	異動や退職が予定される場合は、引き継ぎ期間等を含め、切れ目なく業務を遂行できるよう、法人と話し合いができています。	
2－3. 適正な職員配置をするための取り組みがある	4	法人内における会議や研修等で包括支援センターが担うべき役割を明確にし、法人に対して適材適所に人員を配置すべく提言している。	4	三職種が適切に配置されるよう、法人に包括としての考え方を伝え、適正な配置を維持できている。	
3. 職員間の連携に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
3－1. 三職種の専門性を生かしてチームケア実現に向けた取り組みがある	4	毎朝の申し送りのほか、必要に応じて適宜カンファレンスを行い、3職種で協働あるいは専門性に見合った職種が担当する等の措置を講じている。	4	毎朝の申し送り等を活用し、三職種がそれぞれの専門性を活かしながら、連携して高齢者支援を行っている。必要に応じて、二人体制でケース対応にあたっている。	
3－2. 職員間の効果的な連携を促進するための取り組みがある	4	各々が他職種の専門性について理解するため、各部会の報告や研修の参加、伝達講習等の機会を設けている。	3	職員間で専門性を活用できるよう、話し合いの場を設けている。利用者数等を考慮し、職員間の情報共有を進めるためにはパソコン等により共有する仕組みが必要である。	
3－3. 包括的支援事業の4業務を実施するにあたり、各職種の専門性が生かされている	4	初期相談には全員で対応し、ケースの内容によって担当者を決める方法を採用している。その他、サロン等では看護師が中心となり介護予防の講座を、社会福祉士が民児協定例会において成年後見制度の説明を、主任介護支援専門員がCMの困難ケースの相談対応をそれぞれ中心となって行った。	4	三職種の専門性を活かしながら、介護予防教室を開催している。継続して介護予防教室の開催希望がでるなど関係者や参加者から好評を得ている。	
4. 公正・中立性確保のための具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
4－1. 公正・中立性を確保するための取り組みがある	4	介護サービスや地域の社会資源等の利用を希望する相談者に対し、常に多様な事業者を選定できるよう複数の事業所のパンフレット等を提示している。	4	事業所の特徴を踏まえ、利用者本人の意向を確認しながら、複数の事業所を紹介し、利用者を選択していただく体制がある。市は、毎月の報告書で委託率を把握している。	
4－2. 職員に対する意識啓発に取り組んでいる	4	担当職員は事業者を選定した理由等について詳細に報告し、管理責任者が毎月の法人内会議における資料に事業所の選定が公正・中立性に基づくものである旨を記載している。	4	利用者に紹介する事業所については、各職員は管理責任者に紹介理由を報告する体制を取っている。それにより職員の意識啓発が進んでいる。	
5. 緊急時対応の具体的方針(災害時含む)					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
5－1. 緊急時の体制が整備されている	3	防災マニュアルを作成し、事業所内の閲覧できる場所に配置し必要に応じて朝礼・申し送り等で確認している。	3	防災マニュアルがあり常に閲覧できる体制はあるが、ヒアリングで十分な活用ができていないと判断した。	
5－2. 防災・減災のための取り組みがある	3	防災無線、防災ラジオのほかヘルメット等を常備し、コミュニティセンター内で定期的に行われる防災・避難訓練に参加している。	4	包括内に防災グッズを常備すると共に、積極的にコミュニティセンター内の防災・避難訓練に参加している。	
6. 個人情報保護に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
6－1. 個人情報保護に関する具体的な取り組みがある	3	個人情報保護規定を作成し、事業所内の閲覧できる場所に配置し必要に応じて朝礼・申し送り等で確認している。	4	ヒアリングで、個人情報保護規定を確認した。地域ケア会議での個人情報取り扱い等を通して、個人情報の保護に関する取り組み体制が確立していると判断した。	
6－2. 職員に対する意識啓発に取り組んでいる	3	個人情報を保管するロッカーの施錠、外出時の事務所の施錠確認、使用済み文章のシュレッダー処理を徹底している。また、相談受付時の情報の取り扱い等について全職員で確認している。	4	個人情報の取り扱いについて具体的な取組が職員間で徹底されていることから、個人情報の管理について意識が高いと判断した。	
7. 苦情対応に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
7－1. 苦情対応のための適切な体制が整備されている	4	苦情対応マニュアルを作成し、事業所内の閲覧できる場所に配置し、必要に応じて朝礼・申し送り等で確認している。	4	苦情対応マニュアルがあり、それに沿った取り組みをおこなっている。記録も適切に保管されている。	
7－2. 再発防止のための取り組みがある	4	報告書の作成及び管理責任者との面談により原因を明確にした後に、職員間で回覧し情報共有している。	4	苦情があった場合は、管理責任者と話し合い、再発防止に向け、職員間で共有しており、再発防止に向けた取り組みがある。	
総合評価(平均点)		3.75	3.88	#DIV/0!	

総合評価（自己）	平成27年度は前年度以上に地域の関係機関や団体との関係を深めることを目標に取り組み、民児協・ボラセンの定例会議への参加やコミュニティセンターとの共同事業である認知所予防のための「脳活クラブ」の開催、地域サロン4箇所において月に1度の出張介護予防講座の開催、地区社協主催行事での認知症の方への対応をテーマとした講演やコグニサイズの実践等をおこなうことができた。また、地域住民にとってより身近な包括支援センターを目指し、包括のパンフレット等を地域住民の集会の場に出向いて配布する等の広報活動にも力を入れ、福祉相談室とも協働して包括支援センターの周知に努めた。
総合評価（基幹型）	平成27年度の重点的な取り組み方針に基づき、地域の関係者等との関係を深めることを目指し、関係者の方々との連携協力に努めている。地域住民の認知症予防に関するニーズを把握し、そのニーズに対して、柔軟に鶴嶺西コミュニティセンター等と共同で、認知症介護予防教室「脳活クラブ」を開催し、高齢者等の好評を得るなど成果が出ていることについて評価している。 28年度については、事業計画に即して取り組んでいただくと共に、27年度と同様、地域の方々のニーズに沿った独自事業（教室等）の開催を期待している。また、職員間の効果的かつ効率的な連携を促進する取り組みとして、相談者等に関する情報について電子による情報共有の仕組みの導入について検討していただきたい。
運営協議会の意見	
総合評価（市）	

運営状況レベルの内容	評価点
求められる評価基準を満たしており、具体的成果が見られる	4
求められる評価基準を満たしている	3
求められる評価基準を満たしていないが、取り組みは行っている	2
求められる評価基準を満たしておらず、取り組みも行っていない	1